

LETTER

GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO

Contents

- 1ページ キャンパスアジアプログラムの新しい紹介動画が公開
- 2ページ 新任教員紹介
- 3ページ 学生インタビュー(坪谷)ニューエル郁子さん
- 4ページ GraSPP同窓会主催 ウェビナー・シリーズ / TOPICS

キャンパスアジアプログラムの新しい紹介動画が公開！

2021年 国際プログラムコース修了 金子 翼

約1年の計画と撮影の期間を経て、キャンパスアジア(以下CA)の紹介動画が先日公開されました。「分断」が常態化するコロナ禍において、普段とは違った形で日中韓の繋がりについて再考すると共に、10年に渡るCAの歩みを振り返る作品となっております。

概要動画の他、他大学向けの教材として1) 日中韓の関係性 2) キャンパスアジア設立の経緯と組織概要 3) GraSPPが所属するBESETOプログラムの説明を含む4本の動画を作成しました。

コロナ禍での製作によりシナリオや台本作成は全てオンラインで行った為、全体像が掴みづらかった分、完成した動画を視聴してプロジェクトの規模に驚きました。撮影はほぼモノローグの為、非常に緊張しました。撮影スタッフ・CAメンバー含め10人以上に凝視されながら、沈黙の中、無言で相槌を打ったビデオ通話のシーンは、今思うと割とシュールな光景だったと思います。

一つ一つの動画は少々長くなってしまいましたが、製作に関わったCAメンバーの思いがこもったビデオになっております。是非ご視聴ください！

関連リンク：<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/en/campusasia-news/2021-06-02-30224/>



上:紹介動画(左)と企画・制作に携わった金子さん(右)

下:動画撮影の様子



新任教員紹介

宗像 直子教授



皆さんこんにちは。4月に着任した宗像です。一昨年まで経済産業省、官邸等で勤務し、様々な政策を担当しました。今優先すべき課題は何か、何が問題で、その根本的解決は何か、何が障害で、どう乗り越えるか、数十年後に振り返ってこの状況下で最善の判断だったと言えるか。悩みながら働く日々でしたが、国内外の専門家から学び、出口を見出せたことが何度もありました。

この先は、もっと難しい時代が待ち受けています。公共政策の役割が大きくなり、多様な叡智を結集する必要が高まります。皆さんには、GraSPPでの学びを通じて困難を開閉する引出しを大いに増やし、学び続ける力を養っていただきたいですし、私も一緒に学んでいきたいと思えます。

軸丸 真二 特任教授



みなさん、こんにちは。2021年4月に特任教授に着任した軸丸真二です。国土交通省の職員として省内部署とともに、東日本大震災発災後の宮城復興局、香取市、四国やドイツなど、地方や国際を舞台とする仕事にも携わってまいりました。

これまでの経験から、交通が、国際情勢、環境、デジタル、地方創生、観光、福祉、医療、教育等様々な政策課題、観点と密接に関わる経済社会の基盤であること、特に昨今は多様な主体や政策分野との連携が進んでいることを実感しております。

実務家教員として、交通の実務の最前線の課題を提供し、様々なバックグラウンドを持つ学生の皆様方と一緒に考察を深めていくのを楽しみにしております。

三重野 真代 特任准教授



はじめまして。4月に着任した三重野です。私は国土交通職員で、これまで観光庁や復興庁(観光担当)、京都市役所で観光部長を経験し、現在、観光の講義を担当しています。国交省では「グリーンスローモビリティ」という日本初の政策を立ち上げ、低速地域交通も研究しております。

コロナ禍を経て、人々の価値観は一層多様化してきました。多様化する新たな価値観を取り入れた持続可能な社会を作るためには、自分の中で一つの社会像を結ぶこと、政策として一つ一つを構想し実現できることの両方の能力が必要です。GrasPPで多様な分野の理論と実践を学ぶ中で、皆さんが大局観を持った政策実務家となれるお手伝いができれば幸いです。

学生 インタビュー

第36回



「教育は未来に対する一番の投資」と語るニューエルさん

(坪谷)ニューエル郁子さん 国際公共政策コース 専門職学位課程1年 (2021年入学)

—教育分野で様々なことを手掛けていらっしゃいますね。

学校運営と英語による学童教育など、36年にわたって子供の教育に携わってきました。自ら教育プログラムを作って、1985年に「イングリッシュスタジオ」を立ち上げました。その後、出産し、子供を自分の手で教育したいと思い、その成長に合わせて幼稚園、小学校、中学校を順番に作って、学校法人東京インターナショナルスクールになりました。現在は約70カ国の主として日本国籍以外の子供たちが通っています。

学校運営を通じて学習障害や発達障害という個性を持つ子供たちと出会い、それを機に2000年にはNPO法人東京インターナショナルプログレッシブスクールを設立しました。

学校法人とNPOの理事長、会社の代表取締役、そして母親業と何足かのわらじを履きながら、子育てが一段落した2011年頃から社会活動に取り組み始めました。

—GraSPPへの入学を考えたきっかけは？

内閣官房の教育再生実行会議の第九次提言策定に有識者として携わった際、議論の論点の1つになったのが、教育に経済学的視点を入れるべき、つまりコストパフォーマンスを考えるべきだという話でした。でも私はこの考え方に強い違和感を感じたんです。ただ、政策について知識のない自分が批判だけするのは何か違うと考え、学びへの思いが芽生えました。

その後の第11次提言で、全ての小中学校で1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するという「GIGAスクール構想」に対して、2019年末に2000億円以上の予算がついたんです。さらにコロナ禍で増額と計画の前倒しも決まりました。多額の血税を使う政策に関わった以上、自分も勉強すべきだと責任を強く感じて、決心してGraSPPの門を叩きました。

—学校生活はいかがですか？

還暦を過ぎてからの学生生活は慣れないことばかりで、デジタル文化と学生文化に四苦八苦しています。シラバスが出た時に数カ月分の仕事の予定は最大限調整しました。ただ、実際に授業が始まってみると、急な授業変更が結構多くて…。

それに対しての解決法はまだ見い出せていないですね。時々「やはり無謀だったか…」と落ち込むこともあります。学ぶ機会を頂けたことに本当に感謝しているので、先生方や皆さんに協力いただきながら頑張っています。自分に合うペース配分を模索しながら、今は学業優先で、勉強時間も先にスケジュール入れて、漏れが出てないように工夫しながらやっています。

—GraSPPでの学びを、どのように生かしていきたいですか？

教育によって子供は変わることができます。教育には未来を変える力があると、36年やってきて感じています。日本の財政は債務超過で厳しい状態なのは分かりますが、でも教育は未来に対する一番の投資だと、私は思っています。教育をコストパフォーマンスだけで考える方向性や政策に対して、理論的に意見を言えるようになりたいですね。

人は皆それぞれ違って、それぞれ輝くものを持っています。それを見つけ、引き出し、育てるのが教育だというのはギリシャ時代から変わりません。誰もが輝く社会の創造のためには、教育こそが未来への投資だと位置づけられる社会を作れるように、少しでも貢献していきたいと思っています。



36年の長きにわたって学校教育(上)と英語による学童教育(下)に携わる



GraSPP同窓会主催 ウェビナー・シリーズ

公共政策大学院同窓会(龍岡会)運営チーム

2008年 経済政策コース修了 森田 瑛

コロナ禍で対面イベントの開催が難しくなる一方、オンライン・イベントが普及したことから、昨年11月から、同窓会として約2か月に一度、修了生・在校生向けに様々なトピックで1時間程度の無料ウェビナーを開催しています。

主にGraSPPの修了生や東京大学関係者をスピーカーとして呼びんでいます。昨年11月の第1回開催以降、これまで日本語ウェビナーを4回、英語ウェビナーを1回開催しました。Peatixの同窓会のページをフォローいただくと、今後のウェビナー案内が届きますので、是非こちらからフォローいただき、興味あるイベントにご参加ください！8月も開催予定です！

【東京大学公共政策大学院 (GraSPP) 同窓会のオンライン・イベントページ】

<https://peatix.com/group/7192369/>



また、修了生の方で「自分はユニークな活動をしているからウェビナーに登壇したい」「こういうトピックの話を知りたい」というご要望があれば、いつでも遠慮なく同窓会事務局までご連絡ください！

【同窓会事務局 窓口】

mail : grasppalumni.ut@gmail.com



公共政策大学院同窓会(龍岡会)
運営チーム 森田 瑛

GraSPP同窓会 ウェビナー 第1回

経済産業省 担当者に聞く
行政デジタル化の課題と今後の方向性

11月29日 (日) 19:00 - 20:00 (ZOOM)

吉田 泰己
経済産業省 商務情報政策局総務課
情報プロジェクト室長
(GraSPP 2008年修了生)

GraSPP Alumni Webinar Series

Student Social Movements &
Female Empowerment in Japan

January 31st (Sun) 11:00 - 12:00 (Zoom)

Co-founders of WE Int.

GraSPP同窓会 ウェビナー・シリーズ

東大卒業生に聞く
民間経験を活かした国際協力・国際機関のキャリア

2月20日 (土) 21:00 - 22:00 (ZOOM)

田島 大基
国連WFP 在ケニア東アフリカ地域事務所
予算担当官 (DPO)

日野 薫郎
国際協力機構 (OICA) 民間連携事業部 海外投資課
Investment Officer

GraSPPの修了生や東京大学関係者など毎回多彩なスピーカーが登壇

TOPICS

TTPU—新刊紹介—

交通・観光政策研究ユニット (TTPU) 担当教員の著書が2冊出版されました。

「地域公共交通政策論」(東京大学出版会 宿利正史・長谷知治 [編]) (写真左)

公共政策大学院の冬学期に行われている「地域交通政策研究」の授業をベースとしており、過疎地の交通から自動運転・MaaSまで、転換期を迎えている地域公共交通の課題とこれからの方向性について学ぶことができます。

「グリーンスローモビリティ～小さな低速電動車が公共交通と地域を変える」(学芸出版社三重野真代 [編]) (写真右)

地域の「足」、観光用モビリティ、また「まちの顔」として全国で導入が進む「グリーンスローモビリティ」について、各地の事例から導入・運営のための知識まで、小さな「低速公共交通」が持つ力と可能性を伝える1冊となっています。



編集後記

東京大学第31代総長に藤井輝夫総長が就任しました。総長は就任会見で「深い共感的理解に基づいた対話を通して信頼を構築していくこと」の重要性を述べました。今号1ページ目のCampus Asia Programはまさに日中韓3カ国の「共感」と「対話」の歴史そのものです。完成したビデオをHPでご覧いただければ幸いです。(編集担当)

vol.

63

NEWS
LETTER

【編集・発行】東京大学公共政策大学院 【発行日】2021年7月27日

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/>